

令和7年度 第1回京丹波町総合計画審議会 議事要旨

開催日時	令和7年9月30日(火)13時30分～15時00分
開催場所	京丹波町役場 大会議室
欠席者	なし

【次 第】

1. 開会

2. 委嘱

3. 町長あいさつ

大変熱い夏が過ぎ、朝晩が涼しくなってきた。秋の取入れも順調に進み、7割がたが終わったと認識している。今年は栗も柿も含め、実になるものが全般的に豊作である。こういう年も珍しいのではないか。まさに恵みの秋である。そのご多用のところ、総合計画審議会にご出席いただきありがとうございます。先ほど委嘱した通り、皆様には今後2年を任期として委員をお願いしたい。本審議会は、総合計画と総合戦略の策定、その実効性を高めるための進捗状況の管理と検証の場として設定している。第2次総合計画が来年度末で終期を迎えるため、皆さんにお集まりいただいた。第2次総合計画では、地域資源が輝く産業づくりなど、五つの基本方針に基づいて施策を進めてきた。第3次総合計画は喫緊の課題である人口減少への対応について、しっかりと検討し、町の魅力を生かした施策を実行していくことが必要であると考えている。自身も、様々と意見交換をする機会が多いが、全国的にも人口が減少していると実感している。全国の1,700を超える自治体が人口減少対策を進めている。まちづくりには住民のエネルギーが重要、まちの魅力を増していかなければいけない。1,700の市町村が生き残りをかけた熾烈な競争をしている状況である。先日、総務省を訪問したが、その幹部も、自身と同じ認識であった。その中で、本町の具体的な主な成果としては、ふるさと納税がある。京丹波町は、京都府下でもふるさと納税額で6位に位置している。これはやはりタウンプロモーション、食の町というイメージを定着させたことがポイント。このような自治体は府下でも珍しい。この点を一層進化させ、食が集積するフードバレー構想、だれもが生き生きと健康に暮らせるウェルネスタウン構想、子育てのまちづくりの3本柱をさらに展開し、全国的に注目されるような魅力のあるまちにしていきたい。この柱を強化しながら、新たな施策にも取り組み、地域の活性化を進めていきたい。

この審議会では委員の皆様のご意見を集積し、将来像の実現につながるまちにしたい。後ほど、会長、副会長の選任をしていただく。会長を中心に、忌憚のないご議論をいただける場となることを、期待したい。町の魅力を生かし、皆様が生きがいを持って、活力のある京丹波町にすることを、お願いしたい。

4. 委員の自己紹介

5. 会長・副会長の選任について

※樋口委員より安谷委員を会長に、安谷委員より竹内委員を副会長に選任する提案

会長：安谷委員

副会長：竹内委員

【会長あいさつ】

前回も会長の役割を十分には果たせなかつたが、会長にご指名いただいた。委員の中には新しい方もおられる。膨大な資料を見ながら、専門分野を活かして計画を評価いただくという作業もある。約1年半、再来年の3月には町長に素晴らしい答申を出せるように、ご協力をお願いしたい。

【副会長あいさつ】

自身は審議会委員になって2年目である。その中で、副会長は重責で、資料を読み解くのも苦手である。逆に言えば、それぞれの専門分野をお持ちの方々が参加されている中で、勉強できる機会になるのではないかと考えている。よろしくお願ひしたい。

6. 諒問

7. 総合計画審議会の所掌事務、部会編成等について

会長：事務局案を採用することとする。ただし、必要に応じて見直しも検討する。

8. 令和7年度の審議会の開催等について

9. 協議事項

【第3次京丹波町総合計画の策定に向けて】

事務局：「資料6」等を用いて説明。

【京丹波町創生戦略に係る事業評価の依頼について】

事務局：「資料①」等を用いて説明。

10. 次回の審議会について

次回は2月下旬ごろの予定。

【その他のご質問】

委員：資料P37の観光入れ込み客数と観光消費額の順位の差について、この差が生じる要因をどのように考えているか、またどのように埋めていくか考えがあれば伺いたい。

事務局：京丹波町の観光入れ込み客数のうち 350 万人が味夢の里など、町内の道の駅のレジを通過した人数。これに他の観光施設の入館者数等を足したものが入れ込み客数の総数となっている。つまり、本町の道の駅には寄っていただいているが、時間をかけて町内を楽しんでいたいている方が少ないということ。縦貫道や京阪神地方等からお越しいただいた方に、なるべく長く滞在してお金を落としていただける滞在型の観光を実現することが、入れ込み客数と消費額との差を埋めるポイントになるとを考えている。

委員：人口が減っていく中で、本町の魅力をどうまちづくりにつなげていくか、というところを今後考えていく必要がある。

事務局：本町の魅力である食、里山の景観を活かす、あるいは関係人口の創出に取り組み、楽しんでいただく状況をつくる必要がある。今も取り組んでいるが、より力を入れる必要がある。

部長：P21 のアンケートの回収率について、他の審議会で非常に低いというケースがあった。

今回、住民 1,500 票、中高生 450 票のアンケートを実施するが、何%の回収率なら優位性を担保できていると考えられるのか。

事務局：京丹波町の人口規模であれば、優位性のある回収数は 400 票程度で十分とされている。

ちなみに、前回の京丹波町の住民アンケートの回収数は 585 票で、回収率は 39% であった。これは、他の自治体の同種のアンケートと比較しても非常に高い回収率である。介護や障害など、当事者を対象としたアンケートでない場合は、全国的に回収率が低下する傾向にある。中でも総合計画は対象となる分野が広範であるため、住民の方も当事者意識を持ちづらい。自治体によっては回収率が 20% 程度というケースもある。その中で、京丹波町の 39% という数値は非常に高い。また、回収率を担保する新たな手法として、今回は web での回答を選択できるようにしている。

部長：1,500 票のうち 400 票ということでしょうか。

事務局：ご指摘のとおりである。補足であるが、アンケートの対象はランダム、様々な世代の方が対象になる。例えば高齢者の割合を高く、というような操作は行わない。先ほど説明のあった 400 票という数値は、人口規模が 10 万人の自治体であっても同様で、誤差が数パーセントで優位性が担保される数値である。

事務局：他になければ次に移る。

11. 閉会

副会長：はじめて委員になられる方が多数の中で、長い時間参加いただきありがとうございます。頭が痛くなるような数値が出てきている。観光協会としても、入れ込み客数に対して消費額が少ないという点は課題であり、町長からもあったように、魅力を高めていく必要がある。長時間にわたり、協議いただき、ありがとうございます。

以上